

伊谷純一郎著作リスト (年代順)

伊谷純一郎著作リスト制作委員会⁽¹⁾

伊谷純一郎先生が亡くなられて早くも5年が経とうとしている。周知のごとく伊谷先生は師の今西錦司とともに、世界をリードする日本の霊長類学を作り上げた。その早すぎる死は遺憾の極みであるが、先生が築かれた人類学・霊長類学を継承発展させることが、学恩を受けた者たちのつとめであろう。そのためにはまず著作リストをきちんと整理して「伊谷学」の全貌を明らかにする必要がある。ここに、先生の著書、共著書、編著書、監修書、論文、エッセイ、インタビュー記事など、公表されたもののうち、これまでわかっているもの全部について、出版年月順に取りあげた。ただし、出版の月まではわからないものもあった。

本リストは、これまで各種の受賞・受勲（ハックスリーメダル受賞（1984年）、紫綬褒章受章（1992年）、勲三等瑞宝章受章（1997年）など）の際に、京都大学理学部自然人類学研究室、同人類進化論研究室、京都大学アフリカ地域研究センターなどの関係者の手によって集められていたデータに追加修正をおこなって編纂したものである。これまでこのリスト作りに関係された皆さんに、心からの謝意を表したい。

リストは、1. 和文著書・論文等、2. 翻訳、3. 外国語論文、の3つに分けて記載した。また、著書、編著書、監修書については、最後に再録した。

1. 和文著書・論文等

1940. 「栗谷、大閤ヶ平付近7～8月の蝶類に就て」『京三中博物同好会々誌』3: 99-103.
1941. 「『シータテハ』と『下鴨神社のアヲマダラタマムシ』」『京三中博物同好会々誌』4: 59, 90.
1950. 『大分県高崎山に於けるニホンザルの自然社会』（共）今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎, Primates Research Group.
1950. 『宮崎県日南海岸に於ける野猿の自然社会に就いて』（共）今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎, Primates Research Group.
1951. 10. 「ニホンザルのコミュニケーション」『自然』6(10): 45-49.
1952. 『屋久島のシカとサル』（共）川村俊蔵・伊谷純一郎, Primates Research Group. [伊谷担当部分は「ヤクシマザルの自然社会」として

- 『モンキー』197・198・199, 1984に収録]
1952. 『日南海岸に於けるニホンザルの自然社会』（共）今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎・徳田喜三郎, Primates Research Group.
1953. 「高崎山に於けるニホンザルの自然社会」（共）今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎『阿蘇国立公園擴張地資料－別府から九重へ』pp. 56-63, 大分県.
1953. 「ニホンザルの発育と母子関係」（共）伊谷純一郎・間直之助『生理生態』5(3-4): 112-121.
1954. 『高宕山における日本猿の生態』（共）川村俊蔵・伊谷純一郎, Primates Research Group.
1954. 12. 【著書1】『高宕山のサル』今西錦司（編）『日本動物記・2』284 p, 光文社.
1954. 「ニホンザルの遊牧生活－高宕山の群れについて」（共）伊谷純一郎・徳田喜三郎『日本生態学会誌』4(1): 22-28.
1955. 「千葉県高宕山地区におけるニホンザルの現状」（共）川村俊蔵・伊谷純一郎・徳田喜三

(1) 神戸学院大学人文学部 寺嶋秀明
林原類人猿研究センター 伊谷原一
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 伊谷樹一

- 郎、『千葉県文化財紀要 高宕山ニホンザル総合調査』1: 1-7.
1955. 05. 「ニホンザルの音声と生活」『言語生活』44: 44-50.
1956. 「ニホンザルをめぐる動物たち」北海道林務部編集『林』46: 9-16.
1956. 「高崎山のサルについて」『国立公園』78: 18-20.
1956. 01. 『野生ニホンザルの食生活 高崎山の群れについて (その1) - 野生の植物性食物』pp. 1-14, Primates Research Group.
1956. 07. 「動物社会のリーダー-特に野生ニホンザルについて」『児童心理』10(7): 63-67.
1956. 11. 「人間以前の言語-続ニホンザルのコミュニケーション」『自然』7(11): 22-27
1957. 「ニホンザルのパースナリティ」『遺伝』11(1): 29-33.
1957. 「犬山におけるニホンザルの群れ作りおよび放飼実験について」(共) 伊谷純一郎・河合雅雄『実験動物』6(4): 101-105.
1957. 「高崎山のニホンザルの群れにあらわれた異常個体について」(共) 伊谷純一郎・水原洋城『実験動物』6(4): 105-107.
1957. 03. 「ジグマのような大盗坊猿」三井高孟(編)『猿の四季』pp. 117-156, 四季社. [著書13収録, 改題「泥棒猿」]
1957. 11. 「ニホンザルの食べもの」『モンキー』1: 16-17.
1957. 12. 「世界のサル (その2) - ゴリラ」『モンキー』2: 7.
1958. 「高崎山のニホンザル自然群における新しい食物の獲得と伝播」*Primates*, 1(2): 84-98.
1958. 02. 「類人猿にいどむー日本モンキーセンターアフリカ探検計画」『モンキー』4: 12-13.
1958. 02. 「サルのことば“ガ、ガ、ガ、ガ、ガ”」『モンキー』4: 5.
1958. 07. 【著書2】『幸島のサルーその性行動』(共) 伊谷純一郎・徳田喜三郎, 今西錦司(編)【日本動物記・3】242 p, 光文社.
1958. 08. 「アフリカの自然動物公園」『野猿』3: 3-6.
1958. 09. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (1) - ケニヤ」『モンキー』10・11: 4-7.
1958. 09. 「カメルルポ・赤道アフリカ横断」『モンキー』10・11: 10-16.
1958. 09. 「海拔4,000メートルマウンテンゴリラ探検」(座談) 今西錦司・伊谷純一郎・河合雅雄・深井正敏『モンキー』10・11: 17-18.
1958. 10. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (2) - タンガニイカ」『モンキー』12: 3-5.
1958. 11. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (3) - ウガンダ (その1)」『モンキー』13: 3-5.
1959. 01. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (4) - ウガンダ (その2)」『モンキー』15: 4-5.
1959. 01. 「世界のサル学者 (1) シュルツ博士 Dr. Adolf Schltz」『モンキー』15: 2.
1959. 02. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (5) - ウガンダ (その3)」『モンキー』16: 12-14.
1959. 02. 「世界のサル学者 (2) カーペンター博士 Dr. C. R. Carpenter」『モンキー』16: 2.
1959. 03. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (6) - ウガンダ (その4)」『モンキー』17: 3-4.
1959. 03. 「世界のサル学者 (3) ウォッシュバーン博士 Dr. S. L. Washburn」『モンキー』17: 2.
1959. 04. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (7) - ウガンダ (その5)」『モンキー』18: 12-14.
1959. 04. 「世界のサル学者 (4) ニッセン博士 Dr. H. W. Nissen」『モンキー』18: 2.
1959. 05. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (8) - ウガンダ (その6)」『モンキー』19: 5-6.
1959. 05. 「世界のサル学者 (5) ハドゥ博士 Dr. A. J. Hadow」『モンキー』19: 2.
1959. 06. 「生態写真シリーズ (1) - イモあらい」『モンキー』20: 10.
1959. 06. 「手足の進化」『モンキー』20: 11-12.
1959. 06. 「世界のサル学者 (6) クーリッジ博士 Dr. H. J. Coolidge」『モンキー』20: 2.
1959. 07. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (9) - コンゴ (その1)」『モンキー』21: 5-6.
1959. 07. 「生態写真シリーズ (2) - ディスプレー」『モンキー』21: 10.
1959. 07. 「世界のサル学者 (7) ミス・ドニスソーブ Miss. J. H. Donisthorp」『モンキー』21: 2.
1959. 08. 「JMC アフリカ探検-アフリカの動物たち (10) - コンゴ (その2)」『モンキー』22: 11-12.

1959. 08. 「生態写真シリーズ(3)ーこらしめ」『モンキー』22: 10.
1959. 08. 「世界のサル学者(8) ハロウ博士 Dr. H. F. Halow」『モンキー』22: 2.
1959. 09. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(11)ーコンゴ(その3)」『モンキー』23: 11-12.
1959. 09. 「生態写真シリーズ(4)ー子守り」『モンキー』23: 10.
1959. 09. 「世界のサル学者(9) シューテデン博士 Dr. H. Schouteden」『モンキー』23: 2.
1959. 10. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(12)ーコンゴ(その4)」『モンキー』24: 3-4.
1959. 10. 「生態写真シリーズ(5)ー順位」『モンキー』24: 10.
1959. 10. 「世界のサル学者(10) サウスウィック博士 Dr. C. H. Southwick」『モンキー』24: 2.
1959. 11. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(13)ーコンゴ(その5)」『モンキー』25: 12-13.
1959. 11. 「生態写真シリーズ(6)ー馬のり行動」『モンキー』25: 10.
1959. 11. 「ボスザル列伝(2)ー幸島カミナリ」『野猿』5: 10.
1959. 11. 「世界のサル学者(11) チャンス博士 Dr. M. R. A. Chance」『モンキー』25: 2.
1959. 11. 「ゴリラ探検とその将来ーマウンテンゴリラの生態を聞く」(対談) 河合雅雄・伊谷純一郎『モンキー』25: 3-4
1959. 12. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(14)ーコンゴ(その6)」『モンキー』26: 3-5.
1959. 12. 「屋久島の鹿笛」『モンキー』26: 14.
1959. 12. 「世界のサル学者(12) バン・デン・ベルグ博士 Dr. Van Den Berghe」『モンキー』26: 2.
1960. 「類人猿の生活と社会」泉靖一(編)『人間の生活』【現代文化人類学・第1巻】pp. 27-71, 中山書店.
1960. 01. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(15)ーコンゴ(その7)」『モンキー』27: 4-5.
1960. 01. 「世界のサル学者(13) オストリーチ博士 Dr. P. Ostrieth」『モンキー』27: 2.
1960. 01. 「生態写真シリーズ(8)ー初恋い」『モンキー』27: 10.
1960. 02. 「世界のサル学者(14) クリューバー博士 Dr. Heinrich Klüber」『モンキー』28: 2.
1960. 02. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(16)ーコンゴ(その8)」『モンキー』28: 3-5.
1960. 03. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(17)ーコンゴからカメルーンへ」『モンキー』29: 3-5.
1960. 04. 「世界のサル学者(16) スピラック夫人 Mrs. Spirack」『モンキー』30: 2.
1960. 04. 「生態写真シリーズ(11)ー病気見まい」『モンキー』30: 10.
1960. 04. 「JMC アフリカ探検ーアフリカの動物たち(18)ーカメルーン」『モンキー』30: 11-12.
1960. 07. 「世界のサル学者(18) ハウエルズ博士 Dr. W. W. Howells」『モンキー』33: 2.
1960. 11. 「世界のサル学者(21) ヘディガー博士 Dr. H. Hediger」『モンキー』37: 2.
1960. 11. 「生態写真シリーズ(18)ーなれる」『モンキー』37: 10.
1960. 12. 「世界のサル学者(22) ボルウィッグ博士 Dr. Bolwig」『モンキー』38: 2.
1961. 「サルの群れを追う」「サルの生活から」林寿郎(編)『少年少女日本動物記・1』pp. 26-54, 牧書店.
1961. 01. 「世界のサル学者(23) リーキー博士 Dr. L. S. B. Leakey」『モンキー』39: 2.
1961. 01. 「東アフリカの森とサバンナ(1)ーけものたち」『モンキー』39: 4-6.
1961. 01. 「カメラルボ・東アフリカのサバンナと森林ーJMC 第3次調査の写真よりーその1 森林」『モンキー』39: 8-9.
1961. 02. 「カメラルボ・東アフリカのサバンナと森林ーJMC 第3次調査の写真よりーその2 サバンナ」『モンキー』40: 8-9.
1961. 03. 「ジュピターをしのぶー今はなき高崎山のボスとその後の群れについて」(座談) 伊谷純一郎・水原洋城・河合雅雄『モンキー』41: 3-6.
1961. 03. 「カメラルボ・ジュピター追悼」『モンキー』41: 8-9.
1961. 05. 「ニホンザルの音声とその働き」『モンキー』43: 3-6.
1961. 05. 「カメラルボ・ニホンザルの音声とその表情ー高崎山のサルたちより」『モンキー』43:

- 8-9.
1961. 08. 【著書 3】『ゴリラとピグミーの森』322 p, 岩波書店.
1961. 08. 「マウンテンゴリラの死をめぐって」『モンキー』45・46: 3.
1961. 12. 「アフリカだよりーケニヤ (ナイロビにて)」『モンキー』50: 11.
1962. 「森の小さな狩人たち」大宅壮一・桑原武夫・阿川弘之 (共編)『世界の旅・3 アフリカ大陸』pp. 367-410, 中央公論社. [著書 11 収録]
1962. 07. 「大脳側頭葉の実験生理学的研究」(共) 岩田金冶郎・橋本義雄・中嶋典英・中島正光・都守淳夫・河合雅雄・伊谷純一郎『脳と神経』14(7): 589-590.
1962. 08. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 1)ーキベペオ」『モンキー』58: 3-8.
1962. 08. 「カヨンザの森のピグミーたちー京都大学アフリカ類人猿学術探検より」『モンキー』58: 9-11.
1962. 10. 「アフリカの味」『ハイカー』84: 24-25.
1962. 11. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 2)ーニャティ (1)」『モンキー』61: 6-8.
1963. 「哺乳類」河合雅雄との共著『日本の野生動物』pp. 89-143, 河出書房新社.
1963. 01. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 3)ーニャティ (2)」『モンキー』63: 13-15.
1963. 03. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 4)ーンデゲ」『モンキー』64・65: 7-10.
1963. 03. 「カメルルポ・東アフリカの動物たちー京都大学アフリカ類人猿学術探検写真集より」『モンキー』64・65: 12-13.
1963. 03. 「ボスザル列伝 (10) タイタンー高崎山」『野猿』13: 18.
1963. 04. 「高崎山サル総合調査によせて」『モンキー』66: 3.
1963. 05. 「生態写真シリーズ (34)ー木ゆすり」『モンキー』67: 12.
1963. 07. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 5)ーサマキ」『モンキー』69: 3-7.
1963. 07. 「タイタン時代ージュピター死後の 2 年の高崎山」『モンキー』69: 9-11.
1963. 09. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 6)ーニョカ」『モンキー』71: 3-5.
1963. 10. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 7)ーカソリマ」『モンキー』72: 3-7.
1963. 11. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検ータンガニイカ湖畔の動物記 (その 8)ーニャニ」『モンキー』73: 3-5.
1964. 「アフリカの自然保護」『野猿』20・21: 2-3.
1964. 「高崎山ニホンザル自然群の社会構成」(共) 伊谷純一郎・徳田喜三郎・古屋義男・加納一男・秦雄一, 伊谷純一郎・池田次郎・田中利男 (編)『高崎山の野生ニホンザルー餌さづけ 10 年目の総合調査報告』pp. 3-41, 勁草書房.
1964. 08. 【著書 4】『アフリカ動物記』286 p, 河出書房新社.
1965. 「蛇二題」『きょうと』38: 23-24.
1965. 01. 「世界の博物館・その 1 コリドン・ミュージアム」『モンキー』83・84: 7-9.
1965. 03. 『高崎山のサル』板倉聖宣 [ほか] (共編)【少年少女科学名著全集・12】国土社. [抜粋]
1965. 03. 「野生ニホンザルの音声伝達」川村俊蔵・伊谷純一郎 (編)『サルー社会学的研究』【今西錦司博士還暦記念論文集】pp. 291-357, 中央公論社.
1966. 08. 「チンパンジーの社会構造」『自然』21(8): 17-30.
1967. 「サバンナの四季」『きょうと』49: 42-44.
1967. 02. 「チンパンジーの餌づけと社会構造ー京都大学アフリカ学術調査 1966 年」『科学朝日』27(2): 79-85.
1967. 04. 「霊長類の社会から人間の社会へ」『科学』37(4): 170-174. [著書 12 収録]
1967. 09. 「サルのことば」『ことばの宇宙』9: 86-95.
1967. 11. 「霊長類生態学・社会学の立場から」『日本医師会雑誌』58(11): 1262-1265.
1968. 03. 『人類の誕生』(共) 今西錦司・池田次郎・河合雅雄・伊谷純一郎【世界の歴史・1】河出書房. [担当は「人類進化への前奏曲」pp. 249-294, 「人類社会の黎明」pp. 295-318]
1968. 06. 「サバンナにチンパンジーを追ってーアフリカ類人猿調査小史」『科学朝日』28(6): 104

- 108.
1968. 08. 「サバンナの文字」『図書』228: 1. [著書 11 収録]
1968. 11. 「ブドンゴの森での謎の事件—京都大学アフリカ類人猿学術調査記録から」『モンキー』100: 6-11.
1969. 「サルのはづけ」アサヒグラフ (編)『サルからヒトへ』pp. 22-25, 朝日新聞社.
1969. 07. 「熱帯の緑の館—大型類人猿たちが真の居住者だろうか・・・」『PHP』254: 57-60.
1970. 「無人の原野—西部タンザニアのミオンボ・フォレスト」『世界の楽園・6 アフリカ』pp. 46-52, 番町書房. [著書 11 収録, 改題「ミオンボ・フォレスト」]
1970. 06. 「霊長類の近親交配回避機構」『遺伝』24 (6): 10-13. [著書 12 収録]
1970. 07. 【著書 5】『チンパンジーを追って』238 p, 筑摩書房.
1971. 01. 「素描 タンガニカ湖畔の人々」『展望』145: 119-129.
1971. 05. 「コミュニケーションの進化」『理想』456: 85-97.
1971. 11. 【著書再版】『高崎山のサル』今西錦司 (編)【日本動物記・2】284 p, 思索社. [リプリント]
1971. 11. 「“原野の人” へのアプローチ—京大アフリカ調査隊の報告」『科学朝日』31 (11): 132-136. [著書 11 収録, 改題「原野の人々との出遇い」]
1972. 「動物の社会—とくに霊長類の社会について」『週刊アルファ—大世界百科』114: 2723-2726.
1972. 「サルの世界から」(対談) 伊谷純一郎・藤岡喜愛『放送朝日』213: 6-34.
1972. 02 「カソゲのチンパンジー」『モンキー』121: 24-28.
1972. 02. 「サル学から人間の学へ—人間学への試み 6」(座談) 伊谷純一郎・上山春平・寺本英・広重徹・古谷雅樹・山田慶児『展望』158: 32-62.
1972. 02. 【著書再版】『幸島のサル—その性行動』(共) 伊谷純一郎・徳田喜三郎, 今西錦司 (編)【日本動物記・3】242 p, 思索社. [リプリント]
1972. 02. 「『高崎山のサル』思索社版・あとがき」思索社. [著書 11 収録, 改題「ルグフ川廻行」]
1972. 10. 【著書 6】『霊長類の社会構造』【生態学講座・20】161 p (+索引 13 p), 共立出版. [著書 12 収録]
1973. 【著書 7】『タンガニカ湖畔—自然と人』(共著) 伊谷純一郎・西田利貞・掛谷誠, 191 p, 筑摩書房.
1973. 「生物社会学・人類学からみた家族の起源」青山道夫・竹田旦・有地亨・江守五夫・松原治郎 (共編)『講座家族・1』pp. 1-17.
1973. 「サルの世界から」(対談) 伊谷純一郎・藤岡喜愛『人間を考える: 対談』pp. 63-114, 社会思想社. [「サルの世界から」『放送朝日』1972 の再録]
1973. 『人間学への試み』(座談) 伊谷純一郎・上山春平・岡田節人・寺田和夫・寺本英・広重徹・古谷雅山・山田慶児, 山田慶児 (編), 筑摩書房.
1973. 06. 【著書再版】『高崎山のサル』講談社文庫, 講談社. [リプリント]
1974. 『高崎山のサル』【日本教養全集・12】角川書店. [抜粋]
1974. 「日本猿」『週刊アルファ—大世界百科』185: 4418-4419.
1974. 04. 「イツリの森の物語」『生物科学』26 (4): 184-193. [著書 11 収録]
1974. 06. 「アフリカの森林、オーブランド境界域における野生チンパンジーと未開狩猟採集民の比較生態学的研究」『学術月報』27 (6): 39-43.
1974. 10. 「霊長類の伝達機構」【年報社会心理学】『ことば・シンボル・コミュニケーション—異なるシンボル体系間でコミュニケーションはどこまで可能か—』15: 31-54.
1974. 12. 「霊長類における社会構造の進化」『言語』3 (12): 14-24.
1974. 12. 「人類の故郷」『世界の国: 文化誌・8 アフリカ』pp. 42-55, 講談社. [著書 11 収録]
1974. 12. 「アフリカの類人猿—生態・社会の比較と課題」『アフリカ研究』14: 1-13.
1975. 「ことばの発生 (Ⅱ)—動物の社会行動を通して」『発達と教育—その基本問題を考える』pp. 28-32, 大阪教育大学「発達と教育」その基本問題を考える会.
1975. 「解題」『今西錦司全集・第 6 巻』6: 495-505.
1975. 「解題」『今西錦司全集・第 7 巻』7: 459-486.

1975. 11. 「人間以前の社会から何を学ぶかーサルの研究に携わって」『経済と文化』7(11): 90-100. [インタビュー]
1975. 11. 「霊長類の生態と社会構造」池部陽・小原二郎(編)『人間・建築・環境六書・4』pp. 359-398, 彰国社.
1976. 01. 「遥かなるイプンバーチンパンジー調査行」『アニマ』34: 53-59. [著書8収録]
1976. 02. 「ルグフ縦断 チンパンジー生息の極限地帯を行く」『アニマ』35: 53-59. [著書8収録]
1976. 03. 「トングウェをめぐる動物たち」『アニマ』36: 53-59. [著書8収録]
1976. 03. 「動物学と言語学」『言語生活』294: 86-93.
1976. 03. 「チンパンジーとゴリラ」ホミニゼーション研究会(編)『別冊サイエンス 特集動物社会学・サルからヒトへ』pp. 92-105, 日本経済新聞社.
1976. 03. 「サルからヒトへ」(座談)伊谷純一郎・河合雅雄・鈴木見・藤岡喜愛『別冊サイエンス 特集動物社会学・サルからヒトへ』pp. 118-136, 日本経済新聞社.
1976. 04. 「毘師トングウェ」『アニマ』37: 53-59. [著書8収録]
1976. 05. 「選ばれた動物たち」『アニマ』38: 53-59. [著書8収録]
1976. 06. 「チンパンジーの社会構造」『アニマ』39: 53-59. [著書8収録]
1976. 07. 「メール・アンド・フィーメール」『アニマ』40: 57-63. [著書8収録]
1976. 08. 「イトウリの森」『アニマ』41: 41-47. [著書8収録]
1976. 08. 「『霊長類社会の諸問題』について」(1976. 08. 25脱稿, 未出版)
1976. 09. 「森の中の小さな狩人たち」『アニマ』42: 58-63. [著書8収録]
1976. 09. 「霊長類の社会構造と個体群のエイジング」『医学のあゆみ』97(9): 561-566. [著書12収録]
1976. 10. 「バンドと家族」『アニマ』43: 71-77. [著書8収録]
1976. 11. 「損失の社会学」『アニマ』44: 52-57. [著書8収録]
1976. 12. 「混淆の社会学」『アニマ』45: 73-79. [著書8収録]
1976. 12. 「霊長類」『現代生物学大系・4』pp. 233-248, 中山書店.
1977. 03. 【編著1】『チンパンジー記』744p, 講談社.
1977. 03. 「ウガラ紀行」伊谷純一郎(編)『チンパンジー記』pp. 394-438, 講談社. [著書11収録]
1977. 03. 「行列」伊谷純一郎(編)『チンパンジー記』pp. 439-472, 講談社.
1977. 04. 【編著2】『人類学講座・2 霊長類』伊谷純一郎(責任編集), 人類学講座編集委員会編, 316p, 雄山閣出版.
1977. 04. 「霊長類の伝達機構」伊谷純一郎(編)『人類学講座・2 霊長類』pp. 195-224, 雄山閣出版.
1977. 04. 「イトウリの森のピグミーたち」川田順造(編)『民族探検の旅・第6集 アフリカ』pp. 142-147, 学習研究社. [著書11収録]
1977. 07. 【著書8】『チンパンジーの原野ー野生の論理を求めて』267p, 平凡社.
1977. 07. 「日本におけるインフラ・ヒューマン・カルチュアの研究」(共)伊谷純一郎・西邨顕達, 加藤泰安・中尾佐助・梅棹忠夫(編)『形質進化霊長類』【今西錦司博士古希記念論文集】pp. 387-413, 中央公論社.
1977. 11. 【編著3】『人類の自然誌』伊谷純一郎・原子令三(共編), 634p, 雄山閣出版.
1977. 11. 「トングウェ動物誌」伊谷純一郎・原子令三(共編)『人類の自然誌』pp. 441-537, 雄山閣出版.
1978. 01. 「ピグミーチンパンジーの謎」『本』1: 12-14.
1978. 03. 「サルの言語と人類の言語」『岩波講座日本語・別巻』pp. 1-32, 岩波書店.
1978. 03. 「日本のサル学」『国民百科事典』第10巻: 420-424, 平凡社.
1978. 03. 「ことばの発生(2)ー動物の社会行動をとおして」村井潤一(編)『ことばへのアプローチ』pp. 43-70, ミネルヴァ書房. [講演録]
1978. 09. 「ゴリラとピグミーの森」『紀行全集世界体験・12 アフリカ』pp. 5-21, 河出書房新社. [抜粋『ゴリラとピグミーの森』1961, 第4章]
1979. 「タンザニア マハレ国立公園建設のための募金計画」『国立公園』354: 18.
1979. 「『家族』があつて『学校』があれば…サルと人間紙一重」(対談)伊谷純一郎・楠田枝里子『三洋化成ニュース』275: 20-25.

1979. 04. 「生物として人間は何をしてきたか」(座談)
伊谷純一郎・上山春平・寺本英・山田慶児、
山田慶児(編)『学問の地図ー人間学への試
み』pp. 1-31, 朝日新聞社。
1979. 06. 「ピグミーチンパンジーの謎」小原秀雄
(編)『生きものの世界』pp. 180-186, 講談
社。〔「ピグミーチンパンジーの謎」1978の
再録〕
1979. 07. 「雑食と偏食ー動物とヒトの食性をめぐっ
て」日本生活学会(編)『生活学論集・3 食
の生活と文化』pp. 9-34, ドメス出版。
1979. 08. 「〈人類学ノート〉を終えてー動物とヒトとの
間」(座談)伊谷純一郎・大島襄二・谷泰
『アニマ』7(8): 54-60。
1979. 09. 「野鳥との対話」『自然と盆栽』9月号
(114): 62-63。〔著書13収録〕
1980. 『Mahale タンザニア共和国マハレ自然保護
国立公園マスタープラン』(共)伊谷純一郎
他, 国際協力事業団。
1980. 「ヒトはどこからきたのかー類人猿にさかの
ぼって」(座談)伊谷純一郎・嶋本・白旗・
池田『八瀬野外保育センター紀要』5: 2-23。
1980. 02. 「霊長類における個体の老化と集団の老化」
『日本老年医学会雑誌』17(2): 137-141。
1980. 05. 「霊長類」「ヒトの仲間」「霊長類の行動」「ニ
ホンザルの社会」『原色図解大事典・第2
巻』pp. 178-183。
1980. 07. 「赤道アフリカの自然主義者たち」『季刊民族
学』13: 6-19。〔著書11収録〕
1980. 08. 「ニホンザルのコミュニケーション」川本茂
雄・日下部文夫・柴田武・服部四郎(共編)
『日本の言語学・1 言語の本質と機能』pp.
5-16, 大修館書店。〔1971「コミュニケーション
の進化」『理想』の再録〕
1980. 08. 「コミュニケーションの進化」川本茂雄・日
下部文夫・柴田武・服部四郎(共編)『日本
の言語学・1 言語の本質と機能』pp. 17-
32, 大修館書店。〔1951「ニホンザルのコミ
ュニケーション」『自然』の再録〕
1980. 11. 【著書9】『トウルカナの自然誌ー呵責なき
人々』284p, 雄山閣出版。
1980. 11. 「霊長類の食」石毛直道(編)『食の文化シン
ポジウム '80 人間・たべもの・文化』pp. 67
-88, 平凡社。
1980. 11. 「プレゼンテーション資料『霊長類の食性』」
『食の文化シンポジウム '80ー資料』pp. 1-
- 3, 味の素。
1981. 「旱魃の生態ー遊牧民トウルカナの事例か
ら」『史境』2: 84-94。
1981. 「アフリカの市場」『調査情報』267: 30-
31。〔著書13収録〕
1981. 01. 「旱魃の生態学」『キャリアガイダンス』13
(1): 11。
1981. 02. 「群れへの接近ー高崎山のサル」『自然読本
けもの』pp. 28-43, 河出書房。〔抜粋『高崎
山のサル』1954, 第1章〕
1981. 02. 「タンザニア国立公園の父ーディレック・ブ
ライソン氏の死を悼む」『アニマ』2月
号: 66-77。〔著書15収録〕
1981. 03. 『八重山群島の伝統的生業に関する生態人類
学的研究』伊谷純一郎(編), 昭和55年度文
部省科学研究費補助金(一般研究C)研究成
果報告書。
1981. 04. 「自然の慈悲」『月刊 NIRA』3(4): 10-14。
〔著書13収録〕
1981. 07. 「日記から」『朝日新聞』1981. 7. 13-7. 25
〔著書13収録, 改題「洛北随想」〕
1981. 07. 「洛北大鷲町周辺の動物」『岩倉大鷲町』pp.
143-171。〔一部著書13収録, 改題「ジュー
ナイとマスズメ」〕
1981. 08. 「集団の加齢と行動 霊長類社会の分析か
ら」太田邦夫・阿部裕・古川俊之(編)『高
齢化社会の構造・老化制御の展望 II』pp. 101
-125, サイエンス社。
1981. 09. 「トウルカナに寄せて」『太陽のせいなの?ー
東アフリカ飢餓国境からの報告』pp. 8-9,
プレイガイドジャーナル社。〔著書13収録〕
1981. 10. 「心の生い立ちー社会と行動」『講座現代の心
理学 (1)ー心とは何か』pp. 91-155, 小学
館。〔後半部は著書12収録, 改題「社会構
造をつくる行動」〕
1981. 11. 「極限のエコロジーーアフリカ半砂漠の遊牧
民」『創造の世界』40: 8-37。〔シンポジウ
ム〕
1981. 11. 「自然と人間ー環境への適応」(シンポジウ
ム)伊谷純一郎・梅原猛・太田至・掛谷誠・
河合雅雄・作田啓一・長島信弘『創造の世
界』40: 38-63。
1981. 11. 「アフリカ類人猿の自然社会」『学術月報』33
(11): 49-55。
1981. 11. 「ピグミーの食事」『週刊朝日百科ー世界の食
べもの』308: 181-187。〔著書11収録〕

1982. 04. 「サルとヒトの間」『健康と体力—たくましい青少年の育成と国民スポーツの振興—昭和56年度実践研究事例集』14(4): 5-17. [講演要旨]
1982. 07. 「動物と人の心—行動と社会から」『動物と人間のあいだ』pp. 61-103, 講談社.
1982. 08. 「チンパンジーの原野」『全集日本動物誌・4』講談社.
1982. 08. 「鳥」『全集日本動物誌・月報4』. [著書13収録]
1982. 09. 「霊長類の巢」『新建築学大系・月報11』. [著書13収録]
1982. 11. 【著書10】『大旱魃—トウルカナ日記』235p, 新潮社.
1982. 11. 「トウルカナの絵」『波』16(11): 16-17. [著書13収録]
1983. 「非行の種社会」『科学サロン』25: 3-4.
1983. 03. 「日本学術振興会の50年—回顧と期待」(座談) 伊谷純一郎・今井勇之進・岡野澄・他6名『学術月報』36(3): 172-183.
1983. 04. 「家族起原論の行方」『家族史研究・7集』pp. 5-25, 大月書店. [著書12収録]
1983. 04. 「牛皮の黒板」文部省大臣官房情報処理課(編)『教育と情報』301: 22-23.
1983. 08. 【編著4】『アフリカハンドブック』伊谷純一郎・米山俊直(共編), 講談社.
1983. 08. 「動物と植物」米山俊直・伊谷純一郎(編)『アフリカハンドブック』pp. 499-526, 講談社.
1983. 08. 「自然保護と国立公園」米山俊直・伊谷純一郎(編)『アフリカハンドブック』pp. 527-541, 講談社.
1983. 11. 「分業, 分配から家族の成立へ」(座談) 伊谷純一郎・江原昭善・大参義一・西田利貞『科学朝日』43(11): 44-50.
1983. 12. 「母仔関係と霊長類社会の進化」『周産期医学』13(12): 64-68.
1984. 「人間は本当に文字を使う生物か」(対談) 伊谷純一郎・山城祥二『地球』32: 42-46.
1984. 01. 「チンパンジーの単位集団」河合隼雄・小林登・中根千枝(編)『親と子の絆—学際的アプローチ』pp. 54-60, 創元社. [シンポジウム]
1984. 03. 【著書11】『アフリカ紀行—ミオンボ林の彼方』276p, 講談社.
1984. 03. 【編著5】『アフリカ文化の研究』伊谷純一郎・米山俊直(共編), 786p, アカデミア出版会.
1984. 03. 「トングウェ族の自然村」伊谷純一郎・米山俊直(共編)『アフリカ文化の研究』pp. 699-728, アカデミア出版会.
1984. 03. 「湖畔の休日」『野鳥』450: 30. [著書13収録]
1984. 06. 「山菜採り」『小学校学級担任』6月号. [著書13収録]
1984. 06. 「『自然学の提唱』について」(座談) 今西錦司・伊谷純一郎・太田至・藤岡喜愛・山田秀雄・米山俊直『季刊人類学』15(2): 3-58.
1984. 07. 「停止した時間と絶えざる流転の交錯」『アニメ』12: 12. [著書11収録] [著書13収録, 改題「悠久と転変」]
1984. 08. 「ヤクシマザルの自然社会」『モンキー』197・198・199: 103-111.
1984. 09. 「曲り角に立つアフリカー問題解決の糸口を探る」(座談) 伊谷純一郎・岩城剛・坂本慶一・諏訪兼位『国際協力 特集—模索するアフリカ』9: 6-13.
1984. 09. 「サルからヒトへの進化を追って」(対談) 伊谷純一郎・梅棹忠夫『みんぱく』8(9): 2-7.
1984. 11. 「霊長類学・生態人類学・人類進化論—伊谷純一郎氏のハクスリー記念賞受賞を祝って」(座談) 伊谷純一郎・市川光雄・掛谷誠・河合雅雄・西田利貞・米山俊直『季刊人類学』15(4): 3-56.
1985. 「ニホンザルとチンパンジーの母子関係の比較」『昭和59年度厚生省心身障害研究「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究報告書』pp. 24-25, 厚生省「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究班.
1985. 「わずか10歳で生活を支える—遊牧民トウルカナ族の子どもたち」『日本生命財団ニュース』21: 5.
1985. 「平等性の起原」『玉城教授記念講演集』24: 11-24.
1985. 01. 「洛北随想」(『神戸新聞』1985. 1. 14, 2. 13). [著書13収録, 改題「洛北随想」]
1985. 01. 「霊長類の食性異聞」『神戸新聞』1985年1月29日号. [著書13収録]
1985. 02. 「旅立ち」『神戸新聞』1985年2月26日号. [著書13収録]
1985. 03. 「ある風物詩」『神戸新聞』1985年3月28日号. [著書13収録]

1985. 04. 「遊牧民トゥルカナの子供たち」河合隼雄 (編)『子どもと生きる』pp. 192-213, 創元社. [著書 13 収録]
1985. 04. 「アフリカからの発想」(座談)伊谷純一郎・河合雅雄・田中二郎・米山俊直, 河合雅雄 (編)『アフリカからの発想—文化と進化の接点』pp. 177-214, 小学館.
1985. 05. 「サバンナと芭蕉」『世界』474: 57-60. [著書 13 収録, 改題「サヴァンナと連歌」]
1985. 06. 「霊長類社会の進化の道すじ」『學燈』82 (6): 4-7.
1985. 09. 「乞食考」『現代』9: 436-437. [著書 13 収録]
1985. 09. 「進化論の中に人間性のまことをさぐる」(対談)三河春樹・伊谷純一郎『いずみ』32 (9): 4-11.
1985. 10. 「死の予言者にも精霊にもなるアフリカのカラス」『野鳥』470: 14-15. [著書 13 収録, 改題「アフリカのカラス」]
1985. 10. 「社会の進化」寺本英・岡田節人・伊谷純一郎『生命科学シティー・セミナー・1』pp. 69-107, 培風館.
1985. 11. 「霊長類の社会システムの進化—共存のための不平等原則と平等原則」『社会・経済システム』3: 1-15. [著書 12 収録, 改題「霊長類社会における共存のための不平等原則と平等原則」]
1985. 12. 「牧畜民と旱魃—トゥルカナの事例」『メディカル・ヒューマニティ』1: 93-99.
1985. 12. 「サル学事始めの頃と今日の課題」『霊長類研究』1: 5-14. [講演録]
1986. 「家族の発生と進化 (1)・(2)」加藤秀俊 (編)『家族の本質』pp. 9-35, 放送大学教育振興会.
1986. 「母子関係の変異性に及ぼす諸要因」(共)伊谷純一郎・長谷川真理子『昭和 60 年度厚生省心身障害研究「母子相互作用の臨床応用に関する研究」』pp. 28-31, 厚生省母子相互作用の臨床応用に関する研究研究班.
1986. 01. 「アフリカの自然を守る闘い—マハレ山塊国立公園誕生への道のり」『アニマ』155: 65-69. [著書 13 収録]
1986. 03. 【編著 6】『自然社会の人類学—アフリカに生きる』伊谷純一郎・田中二郎 (共編), 393 p, アカデミア出版会.
1986. 03. 「人類社会の進化—人間平等起原論」伊谷純一郎・田中二郎 (編)『自然社会の人類学』pp. 349-389, アカデミア出版会.
1986. 05. 「霊長類社会構造の進化」『創造の世界』58: 160-185. [著書 12 収録]
1986. 05. 「順位をめぐって」『指導と評価』32: 2-3. [著書 13 収録]
1986. 08. 「動物と庭」『週刊朝日百科 日本の歴史 19』547: 233.
1986. 10. 「アフリカとの 30 年」『青淵』451: 24-27. [著書 13 収録]
1986. 11. 「老い—生物と人間」『老いの人類史』【老いの発見 (1)】pp. 117-128, 岩波書店. [著書 15 収録]
1986. 11. 「霊長類にみる血縁・地縁・生き甲斐—家族以前」『年金と住宅』64: 18-21. [著書 13 収録, 改題「家族以前」]
1986. 11. 「生命を写すリアリズム」(対談)伊谷純一郎・飯沢匡『アニマ別冊 動物画の世界—野生の生命を描く』168: 42-46.
1986. 12. 「京住記」『京住記—それぞれの京都 60 人の語り』pp. 27, 朝日新聞社
1987. 「健康について—アフリカでの経験から」『「健康に関する教育研究体制のあり方」調査研究報告書』pp. 21-23, 京都大学昭和 61 年度教育研究特別経費.
1987. 「野生動物保護について—猿害の構造」『福井県獣医師会だより』1: 6.
1987. 04. 「霊長類の社会構造」桑原武夫 (編)『創造的市民講座—わたしたちの学問』pp. 117-151, 小学館. [講演録]
1987. 05. 「若い日の私」『毎日新聞』1985 年 5 月 8 日号. [著書 13 収録]
1987. 06. 【著書 12】『霊長類社会の進化』354 p, 平凡社.
1987. 06. 「サルからヒトへの進化を追って」(対談)伊谷純一郎・梅棹忠夫, 梅棹忠夫 (編)『対論—人間探究—人間科学の新展開』pp. 80-100, 講談社.
1987. 07. 「アルバイト今昔」『京古本屋往来』37: 1. [著書 13 収録]
1987. 07. 「越境と地域研究」『同朋』111: 1.
1987. 09. 「心の旅」『ポスト』24(9): 19. [著書 13 収録]
1987. 10. 「狩猟採集民は貧しいといえるか」『季刊民族学』11(4): 10-12.
1987. 10. 「集団の老化 (1) 霊長類」『臨床科学』23

- (10): 1351-1356.
1987. 11. 「アフリカ派遣研究員のこと」『日本学術振興会 20 年の歩み』 pp. 10-13, 日本学術振興会.
1987. 11. 「性と社会行動」(シンポジウム) 伊谷純一郎・梅原猛・加納隆至・河合雅雄・作田啓一・長谷川寿一『創造の世界』64: 70-95.
1988. 「子どもたちと鳥の世界ー遊牧民トゥルカナの調査から」『岩波講座教育の方法・別巻』 pp. 353-374, 岩波書店.
1988. 「霊長類社会の七不思議」(講演記録)『大阪精神神経科診療所医会誌』12: 38-45.
1988. 01. 「馬とのつき合い」『優駿』48(1): 49. [著書 13 収録]
1988. 03. 「コメント」(「シンポジウム」コミュニケーションの進化)『季刊人類学』19(1): 95-111.
1988. 04. 「アフリカの再考」『JCnews』4: 3. [著書 13 収録]
1988. 04. 「若手研究者の手紙ーザイル盆地の熱帯多雨林」『学術月報』41(4): 319.
1988. 05. 「チンパンジーの言語」金田春彦・林大・柴田武(共編)『日本語百科大事典』pp. 1253-1256, 大修館書店.
1988. 05. 「順位をめぐる」図書文化(編)『だんわしつー教育を語るエッセイ集』pp. 22-25, 日本図書文化協会.
1988. 06. 「コメント」(瀬戸口烈司「ヨザルがはらむ霊長類社会進化論への問題点」)『季刊人類学』19(2): 107-112.
1988. 06. 「宮地先生と霊長類研究グループ」『モンキー』32(6): 14-15. [著書 13 収録]
1988. 07. 「マハレ山国立公園への援助」『自然保護』314: 13.
1988. 08. 「子供と鳥ー遊牧民トゥルカナについて」『京都小児科医会会報』32: 11-13. [著書 13 収録, 改題「トゥルカナの子供と鳥」]
1988. 10. 「月の虹」(編)森本哲郎『驚異への旅ー新撰世界七不思議』pp. 177-182, 文藝春秋. [著書 13 収録]
1988. 10. 「田園喪失」『JCnews』10: 3. [著書 13 収録]
1989. 02. 【監修 1】『アフリカを知る事典』伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直(監修), 平凡社.
1989. 06. 「人間性の起源ー霊長類と人間の間」『岩波講座転換期における人間・1』pp. 171-194, 岩波書店.
1989. 07. 「いずれが実像でいずれが虚像なのかー動物写真へのひとつの問いかけ」『アニマ』202: 10-11. [著書 13 に収録, 改題「虚像と実像」]
1989. 10. 「「人間性の進化」のあとさき」川喜田二郎(監修)『今西錦司ーその人と思想』pp. 137-156, ペリカン社. [『今西錦司全集』第 7 巻 解題 1975]
1990. 「「ひまな人びと」の研究」『京都会議』14: 10.
1990. 01. 「私の心にのこる風景ー都井岬」『国立公園』480: 11.
1990. 01. 「立花隆のサル学レポート・34 サルに学ぶヒト」(インタビュー) 伊谷純一郎・立花隆『アニマ』208: 94-99.
1990. 02. 「地域研究と学術情報」『静脩』(京大付属図書館報) 26 (1&2): 1-3.
1990. 02. 「立花隆のサル学レポート・35 サルに学ぶヒト」(インタビュー) 伊谷純一郎・立花隆『アニマ』209: 90-96.
1990. 03. 【著書 13】『自然の慈悲』286 p, 平凡社.
1990. 03. 「立花隆のサル学レポート・36 サルに学ぶヒト」(インタビュー) 伊谷純一郎・立花隆『アニマ』210: 90-96.
1990. 07. 「タンガニカ湖畔」『梅棹忠夫著作集』月報 5, 中央公論社. [著書 15 収録]
1990. 07. 「田中豊美画集・日本の野生動物」(書評)『アニマ』18(7): 116.
1990. 08. 「『闇の奥』より」『悠』8月号. [著書 15 収録]
1990. 10. 「霊長類社会における男女」『性のポリフォニー』世界思想社. [著書 15 収録]
1990. 12. 「人類学とアフリカの旅」『アフリカ研究』37: 1-10. [著書 15 収録]
1991. 「ルグフ川」『国立科学博物館ニュース』226号. [著書 15 収録]
1991. 02. 「カルチュアの概念ーアイデンティフィケーション論その後」西田利貞他(編)『サルの文化誌』pp. 259-278, 平凡社.
1991. 05. 「自然と人間との関係」『太陽』. [著書 15 収録]
1991. 09. 【著書 14】『サル・ヒト・アフリカー私の履歴書』213 p, 日本経済新聞社.
1991. 10. 「サル・トリ・ヒトー社会の構造と非構造」

- 『イリウム』3(2):41-56. [著書 15 収録]
1992. 「ケニア遊牧民の潜在的農耕—トウルカナの事例」『農耕の技術』15: 1-24. [『アフリカと熱帯圏の農耕文化』大明堂 (1995) に収録]
1992. 「魚つかみ遍歴」『淡水魚保護』. [著書 15 収録]
1992. 「回想今西先生」『京都』. [著書 15 収録]
1992. 01. 「動植物の実名と虚名」『教育展望』1・2 月合併号. [著書 15 収録]
1992. 01. 「『人間平等起原論』補遺」『學鐙』. [著書 15 収録]
1992. 01. 「申」『読売新聞』(1 月 6-10 日, 13-14 日, 16-17 日). [著書 15 収録, 改題「猿九話」]
1992. 02. 「サルを生薬」『漢方ダイジェスト』22: 2-7. [著書 15 収録]
1992. 03. 「今西先生とサル学事始め」『こうしま』. [著書 15 収録]
1992. 03. 「渋谷敬三先生と日本の霊長類学」『渋谷敬三著作集』月報 1, 平凡社. [著書 15 収録]
1992. 05 「鳥に会う」『銀行倶楽部』. [著書 15 収録]
1992. 06. 「道と時と」『Humanitas』No. 6: 1.
1992. 07. 「山崎柄根著『鹿野忠雄』を読んで」『月刊百科』7 月号. [著書 15 収録, 改題「鹿野忠雄のこと」]
1992. 08 「現代の言葉」『京都新聞』(1992. 8. 11, 9. 26, 11. 13, 1993. 1. 7, 2. 26, 4. 14). [著書 15 収録]
1992. 09. 「下鴨界隈そして家族起源論」『民族学コラージュ』リプロポート. [著書 15 収録]
1992. 10. 「わが今西錦司を語る 人類学の視点でサルを捉える—新しい霊長類学への道」『アニマ』241: 20-26. [著書 15 収録]
1993. 03. 「共同体の原像と社会契約—ヒトとサルの間」(座談) 伊谷純一郎・河上倫逸・横山俊夫, 比較法史学会 (編)『歴史と社会のなかの法』pp.118-159, 未来社.
1993. 04. 「自然が観察者に頬笑みかけてくれた瞬間」『アニマ』4 月号: 10-11. [著書 15 収録]
1993. 05. 「遊牧民トウルカナの鳥類文化複合」『学術月報』46(5): 6-11 (408-413).
1993. 06. 「解題」『増補版今西錦司全集・第 11 巻』pp. 510-523, 講談社.
1993. 06. 『増補版今西錦司全集』伊谷純一郎他 (共編), 講談社.
1993. 10. 「タンガニイカ湖畔」『霊長類研究』9: 215-224.
1993. 11. 【著書 15】『自然がほほ笑むとき』230 p, 平凡社.
1994. 「今西錦司—ウマとゴリラとカゲロウと」『動物たち』84: 12-16, 財団法人日本動物愛護協会.
1994. 01. 「霊長類社会の新世界」『生物科学』46(1): 3-6.
1994. 03. 「霊長類社会の進化—優劣から平等の世界へ」(講演記録「守口市医師会秋季講演会 1993. 11. 20, 大阪グランドホテル」『守口市医師会会報』62: 1-19, 社団法人守口市医師会.
1994. 03. 「野帳」『京大広報』463: 744.
1994. 04. 「屋久島の自然と人—古い野帳より」『生命の島』30: 25-29, 屋久島産業文化研究所.
1994. 04. 「自然の慈悲」(講演記録「金曜会」1994 年 4 月 23 日, 東京, 日立金属高輪湊会館).
1994. 05. 「屋久島の道路拡張は再考を」『朝日新聞』論壇.
1994. 07. 「山原の明と暗」『アニマ・動物写真の世界』pp. 42-47, 平凡社.
1994. 07. 「リーダーとフォロワー」『増補版今西錦司全集・別巻 月報』講談社.
1994. 11. 「経験の集積」(対談) 伊谷純一郎・河合隼雄『河合隼雄対話集—科学の新しい方法論を探る』pp. 213-249, 三田出版社.
1995. 07. 「まえがき」大塚柳太郎・市川光雄・秋道智彌 (編)『生態人類学を学ぶ人のために』pp. i-v, 世界思想社.
1995. 08. 「競争よりも共存の理論—戦後の日本社会 (戦後 50 年エピローグ)」『朝日新聞』.
1995. 12. 「ケニア遊牧民の潜在的農耕—トウルカナの事例」渡部忠世監修, 農耕文化研究振興会編『アフリカと熱帯圏の農耕文化』【農耕の世界, その技術と文化 II】pp. 19-40, 大明堂.
1995. 12. 「国境」『JANES ニュースレター』5: 1.
1995. 12. 「混群—似て非なるものへのそこはかかない関心」『遺伝』49(12): 2-3.
1996. 「サルと人間の社会学」『中山科学振興財団活動報告書・1996』pp. 23-27, 中山科学振興財団.
1996. 02. 「学問の裏舞台—今西錦司先生とのある旅」『学術月報』49(2): 244-245.
1996. 03. 「今西錦司先生との山行」(日本山岳会創立 90

- 周年記念集会（岐阜・京都ブロック）記念講演 1995. 7. 8 講演録『支部だより』42号別刷：1-12).
1996. 03. 「歴史と自然の旅人ー江戸とアフリカ」（対談）伊谷純一郎・塚本学・篠原徹『列島の文化史』10：1-26，日本エディタースクール出版部.
1996. 06. 【著書 16】『江戸とアフリカの対話』（共）伊谷純一郎・塚本学・篠原徹，166 p，日本エディタースクール出版部.
1996. 09. 【著書 17】『森林彷徨』伊谷純一郎・大塚柳太郎（編）【熱帯林の世界・1】235 p，東京大学出版会.
1996. 09. 「森は動く」『UP』287：6-11，東京大学出版会.
1997. 02. 「「熱帯林」への誘い」（座談）伊谷純一郎・大塚柳太郎・加納隆至『UP』東京大学出版会.
1997. 03. 「随想 コロンビア・マカレナ＝ティニグワ国立公園」Kihara Memorial Foundation NEWS LETTER, 14：4-7，木原記念横浜生命科学振興財団.
1997. 05. 「私が出会った本 志賀直哉著『暗夜行路』」『〔不明〕タイムス』1997年5月2日号.
1997. 09. 「競争と共生」『霊長類研究』13：183-186.
1997. 09. 「サル・ヒト・社会」（対談）伊谷純一郎・安岡章太郎『安岡章太郎 15 の対話』pp. 31-44. 〔北海道新聞 1992年1月1日掲載〕
1997. 12. 「熱帯林破壊の構図」『岩波講座開発と文化・3「月報」』pp. 1-4.
1998. 05. 「アフリカの味」『季刊ヴェスタ vesta』31：2-3.
1998. 10. 「無伴奏チェロ組曲に言寄せて」原子令三著『森と砂漠と海の人びと』pp. ii-iii，UTP 製作センター.
1999. 01. 「魚の名」『青淵』598：6-8，渋沢青淵記念財団竜門社.
2000. 08. 「「心」「社会」「進化」ーサルの研究で人類史を復原する」『公研』38(8)：42-57. 〔インタビュー〕
2000. 08. 「蘭嶼の鳥」『青淵』617：2-3，渋沢青淵記念財団竜門社.
2000. 11. 「蕪村の動物句」『鳥獣虫魚の歳時記』pp. 295-297，朝日新聞社.
2000. 11. 「日本の霊長類学の半世紀」松沢哲郎・長谷川寿一編『心の進化ー人間性の起源を求めて』p. 132，岩波書店.
2001. 01. 「アフリカの植生図・一試案の提示」『人間文化』15：15-17，神戸学院大学人文学会.
2001. 01. 「人類発祥の地を問う」『人間文化』15：1-14，神戸学院大学人文学会. 〔講演記録〕
2001. 08. 「アフリカ地域研究・霊長類学・人類学における学際」『学際』2：37-45.
2001. 10. 「刊行のことば」『講座・生態人類学』京都大学出版会.
2002. 03. 「アフリカ植生を考える」『アフリカ研究』60：1-33.
2003. 07. 【著書 18】『類人猿にみる人間』（共）伊谷純一郎・尾本恵市・養老孟司，229 p，中山書店. 〔講演録〕
- ## 2. 翻訳
1967. 09. 池田次郎・伊谷純一郎（共訳）『人類の起原』（今西錦司（責任編集）『ダーウィン』【世界の名著 39】中央公論社.
1971. 06. 伊谷純一郎・西田利貞・秋鹿祐輔（共訳）『動物とヒトの行動（1）』（共訳）（アンソニー・バーネット著）みすず書房.
1971. 09. 伊谷純一郎・西田利貞・秋鹿祐輔（共訳）『動物とヒトの行動（2）』（共訳）（アンソニー・バーネット著）みすず書房.
1978. 09. 伊谷純一郎・美濃口坦（共訳）『比較行動学（1）』アイブル・アイベスフェルト著，みすず書房.
1979. 10. 伊谷純一郎・美濃口坦（共訳）『比較行動学（2）』アイブル・アイベスフェルト著，みすず書房.
1994. 05. 高崎和美・高崎浩幸・伊谷純一郎（共訳）『心の窓ーチンパンジーとの 30 年』ジェーン・グドール著，全 429 頁，どうぶつ社.
- ## 3. 外国語論文
1959. Paternal care in the wild Japanese monkey, *Macaca fuscata fuscata*. *Primates*, 2(1)：61-93.
1961. The society of Japanese monkeys. *Japan Quarterly*, 8(4)：421-430.
1963. Paternal care in the wild Japanese monkey, *Macaca fuscata*. In C. H. Southwick(ed.), *Primate Social Behavior*, pp. 91-97, D. Van Nostrand Company, Princeton.
1963. Vocal communication of the wild Japanese monkey. *Primates*, 4(2)：11-66.

1963. The social construction of natural troops of Japanese monkeys in Takasakiyama. Itani, J., K. Tokuda, Y. Furuya, K. Kano & Y. Shin, *Primates*, 4(3) : 1-42.
1965. On the acquisition and propagation of a new food habit in the troop of Japanese monkeys at Takasakiyama. In K. Imanishi & S. A. Altmann (eds.), *Japanese Monkeys*, pp. 52-65, The University of Alberta, Edmonton.
1965. Social organization of Japanese monkeys. *Animals*, 5(15) : 410-417.
1966. Die Soziale Ordnung bei den Japanischen Affen. *Das Tier*, 6 : 8-12.
1966. Chimpanzees in Kasakati Basin, Tanganyika (I) : Ecological Study in the Rainy Season 1963-1964. Itani, J. & K. Izawa, *Kyoto University African Studies*, 1 : 73-156.
1967. The social unit of chimpanzees. Itani, J. & A. Suzuki, *Primates*, 8 : 355-381.
1968. The social organization of chimpanzees. (unpublished paper presented at the *Symposium No. 42 of Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research*, Vienna, on August 19-28, 1968.)
1972. A preliminary essay on the relationship between social organization and incest avoidance in non-human primates. In F. E. Poirier (ed.), *Primate Socialization*, pp. 165-171, Random House, New York.
1973. The study of infrahuman culture in Japan. Itani, J. & A. Nishimura, In E. W. Menzel, Jr. & S. Brook (eds.), *Symposia of the Fourth International Congress of Primatology*, vol. 1. Precultural Primate Behavior, pp. 26-50.
1974. Distribution and adaptation of chimpanzees in an arid area (Ugalla Area, Western Tanzania). (A paper prepared in advance for Symposium No. 62, *The Behavior of Great Apes*, in Burg Wartenstein, July 20-28, by Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research.)
1975. Twenty years with Mount Takasaki monkeys. In G. Bermant & D. G. Lindburg (eds.), *Primate Utilization and Conservation*, pp. 101-125, John Wiley & Sons, New York.
1977. Evolution of primate social structure. *Journal of Human Evolution*, 6 : 235-243.
1979. Distribution and adaptation of chimpanzees in an arid area. In D. A. Hamburg & E. R. McCown (eds.), *The Great Apes*, pp. 55-72, The Benjamin/Cummings, California.
1980. The Turkana's view of nature. In J. Tanaka (ed.), *A Study of Ecological Anthropology on Pastoral and Agrico-pastoral Peoples in Northern Kenya*, pp. 26-54, Kyoto University Primate Research Institute, Inuyama.
1980. Social structures of African great apes. (In R. V. Short and Barbara J. Weir (eds.), *The Great Apes of Africa*), *Journal of Reproduction & Fertility*, Supplement 28 : 33-41.
1980. Macaco del Giappone, *Macaca fuscata*. In *Grande Enciclopedia illustrata Degli Animali Mammiferi*, vol. 5 : 75-80, Arnoldo Mondadori Editore, Milano.
1980. *Mahale : Study for the Proposed Mahale Mountains National Park*. Itani, J. et al., Japan International Cooperation Agency, Tokyo.
1981. A newly-discovered population of *Colobus angolensis* in East Africa. Itani, J., T. Nishida, M. Hiraiwa & T. Hasegawa, *Primates*, 22(4) : 557-563.
1982. La structure sociale delle scimmie antropomorfe africane. *Scienza & Tecnica*, 83 : 220-225.
1982. La vie sociale des grands singes. *La Recherche*, 13(134) : 744-751.
1982. Intraspecific killing among non-human primates. *J. Social Biol. Struct.*, 5 : 361-368.
1983. Sociological studies of Japanese monkeys. *Recent Progress of Natural Sciences in Japan*, 8 : 89-94.
1983. Die Tötung von Artgenossen bei Nichtmenschlichen Primaten. In M. Gruter & M. Rehlinger (eds.), *Der Beitrag der Biologie zu Fragen von Recht und Ethik*, pp. 143-157, Duncker & Humblot, Berlin.
1984. Inequality versus equality for coexistence in primate societies. In *Absolute Values and the New Cultural Revolution*, pp. 161-189, I. C. U. S. Books, Chicago.
1985. The evolution of primate social structures. *Man (N. S.)* 20(4) : 593-611.
1987. Inequality versus equality for coexistence in pri-

- mate societies. In D. McGuinness (ed.), *Dominance, Aggression and War*, pp. 75–104, Paragon House Publishers, New York.
1988. The origin of human equality. In M. R. A. Chance (ed.), *Social Fabrics of the Mind*, pp. 137–156, Lawrence Erlbaum Associates Ltd. Hove.
1990. Safari surveys of the vegetation and the chimpanzee groups in the northern half of the Mahale Mountains. In T. Nishida (ed.), *The Chimpanzees of the Mahale Mountains: Sexual and life History Strategies*, pp. 37–61, University of Tokyo Press, Tokyo.
1994. *Hominid Culture in Primate Perspective*. Duane Quiatt and Junichiro Itani (eds.), 391 pages, University Press of Colorado.
1994. Preface: Culture, Nature, and the Nature of Culture. Duane Quiatt and Junichiro Itani, In Duane Quiatt and Junichiro Itani (eds.), *Hominid Culture in Primate Perspective*. pp. xiii–xvii, University Press of Colorado.
- 著書, 編著書, 監修書リスト
1954. 12. 【著書 1】『高崎山のサル』今西錦司 (編) 【日本動物記・2】284 p, 光文社.
1958. 07. 【著書 2】『幸島のサルーその性行動』徳田喜三郎との共著, 今西錦司 (編) 【日本動物記・3】242 p, 光文社.
1961. 08. 【著書 3】『ゴリラとピグミーの森』322 p, 岩波書店.
1964. 08. 【著書 4】『アフリカ動物記』286 p, 河出書房新社.
1970. 07. 【著書 5】『チンパンジーを追って』238 p, 筑摩書房.
1972. 10. 【著書 6】『霊長類の社会構造』【生態学講座・20】161 p (+索引 13 p), 共立出版.
1973. 【著書 7】『タンガニカ湖畔ー自然と人』(共著) 伊谷純一郎・西田利貞・掛谷誠, 191 p, 筑摩書房.
1977. 07. 【著書 8】『チンパンジーの原野ー野生の論理を求めて』267 p, 平凡社.
1980. 11. 【著書 9】『トウルカナの自然誌ー呵責なき人々』284 p, 雄山閣出版.
1982. 11. 【著書 10】『大旱魃ートウルカナ日記』235 p, 新潮社.
1984. 03. 【著書 11】『アフリカ紀行ーミオンボ林の彼方』276 p, 講談社.
1987. 06. 【著書 12】『霊長類社会の進化』354 p, 平凡社.
1990. 03. 【著書 13】『自然の慈悲』286 p, 平凡社.
1991. 09. 【著書 14】『サル・ヒト・アフリカー私の履歴書』213 p, 日本経済新聞社.
1993. 11. 【著書 15】『自然がほほ笑むとき』230 p, 平凡社.
1996. 06. 【著書 16】『江戸とアフリカの対話』(共) 伊谷純一郎・塚本学・篠原徹, 166 p, 日本エディタースクール出版部.
1996. 09. 【著書 17】『森林彷徨』伊谷純一郎・大塚柳太郎 (編) 【熱帯林の世界・1】235 p, 東京大学出版会.
2003. 07. 【著書 18】『類人猿にみる人間』(共) 伊谷純一郎・尾本恵市・養老孟司, 229 p, 中山書店.
1977. 03. 【編著 1】『チンパンジー記』744 p, 講談社.
1977. 04. 【編著 2】『人類学講座・2 霊長類』伊谷純一郎 (責任編集), 人類学講座編纂委員会編, 316 p, 雄山閣出版.
1977. 11. 【編著 3】『人類の自然誌』伊谷純一郎・原子令三 (共編), 634 p, 雄山閣出版.
1983. 08. 【編著 4】『アフリカハンドブック』伊谷純一郎・米山俊直 (共編), 講談社.
1984. 03. 【編著 5】『アフリカ文化の研究』伊谷純一郎・米山俊直 (共編), 786 p, アカデミア出版会.
1986. 03. 【編著 6】『自然社会の人類学ーアフリカに生きる』伊谷純一郎・田中二郎 (共編), 393 p, アカデミア出版会.
1989. 02. 【監修 1】『アフリカを知る事典』伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直 (監修), 平凡社.

(2006. 2. 10 受稿/2006. 4. 14 受理)